六原まちづくり委員会
令和２年度事業報告書

報告期間：令和２年６月１日～令和３年５月31日

【１．具体的な活動内容】

まちの総合戦略を手がける第１部会と主に防災観点の取組を手がける第２部会を設置し、以下の活動を行った。

２部会共通事項

学識経験者・各種専門家を交え、表に示す回数の検討会議を実施した。

	コアメンバー会議	部会会議
第１部会	３回	８回
第２部会	４回	３回
２部会合同会議	１回	

コロナ禍ではあったがオンライン会議システム併用のハイブリッド会議を実施することで、会議自体がまったく開催できない事態は回避できた。

第１部会

空き家対策と高齢者対策を主眼に、まちの総合戦略を検討する第１部会では新型コロナウイルスの感染拡大による自治活動の停滞を大きな問題と捉え、現状把握と解決策の検討を行った。人と人の接点消失によって生じたコミュニケーションの分断や、高齢者の孤立を緩和するひとつの手立てとして、ICT（情報通信技術）の利用を実験的に行った。

具体的には年初にzoomを使ったコア会議を開いてオンライン会議の有効性を確認し、その後、対面とzoom併用のハイブリッド会議の運営方法を試行錯誤。その間、対面会議への参加者を感染拡大状況に応じて制限する上での指針となる「会議招集レベル」を策定した。また、必要な設備・備品を洗い出す一方で、会議参加者にオンライン会議に慣れてもらうための説明や戸別訪問、練習等の支援を行った。

第１部会の活動で蓄積したハイブリッド会議のノウハウは、第２部会や町会長会議、まちづくり委員会以外の他団体（六原社協や自主防災会等）へと浸透させる努力を行い、その一環として、コロナ禍で中断していた六原社協主催の高齢者向け体操教室を、zoomを使った二拠点中継で再開させることにつなげた。

また、６月には町会長と自主防災会防災リーダーを対象にアンケート用紙を配布する方式で自宅のインターネット環境整備状況を調査した。

第２部会

第２部会では、安心して住み続けられる町をテーマに、主にハード面の取組を地域住民・外部専門家・行政と連携して行ってきた。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大で集まることが難しく、活動に大きな制約を受けた。

人数を絞ったコア会議を開いて協議するうちに、「ICT を活用した自治会活動」「コロナと避難所」など、新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」を見据えたテーマが浮上した。まずオンライン会議に慣れるため、７月に zoom と対面型会議のハイブリッド方式で行われた、第１部会との合同会議に参加した。

11 月には学区内の町ブロック単位で毎年実施している恒例の地域ローラーを、清水会ブロックで実施した。例年だと観光客でごった返す場所だが、コロナ禍で比較的空いている状況を逆手に、地域住民、自主防災会、行政、専門家と連携して、地域の避難場所や危険ブロック塀など防災上の課題がある箇所を点検することができた。

また、コア会議や部会会議では「感染症対策をとった避難所運営」をテーマに協議を進めた。町部長を対象にした段ボールベッドの組み立て研修の提案もあったが、コロナ第三波のため実現には至らなかった。

【２．活動の成果】

第１部会

インターネット環境整備状況の調査により、六原自治連 30 カ町の町会長のうち、自身でインターネットが利用できる方は 25 名に及び、想像以上に各世帯で ICT 環境が整備されていることを把握した。一方、アンケートの自由記述欄には ICT 弱者への配慮を忘れないようにとのコメントもあり、ICT で統一を図るのではなく、ICT と対面のハイブリッド型がいずれの場面でも重要であることを認識した。

当初はオンライン会議などハードルが高く、できないと思われていた方々も、オンライン会議の回数を重ねるにつれ無理ではないとの認識が広がった。初期段階は声が聞き取りにくい、発言者の顔が映らない等の問題に直面したが、回を重ねるごとにマイク、スピーカー、カメラなど必要と思われる機器を追加していった。途中からは音質が優れないと会議中の集中力が維持できないことに気づき、マイク・スピーカーの数量、品質、配置を試行錯誤した結果、オンライン会議にありがちなストレスがある程度緩和され、スムーズなハイブリッド会議が開催できるようになった。

感染状況がやや落ち着いていた夏～秋にオンライン会議の練習を重ねていたため、第三波が襲来した冬以降も滞りなく月例会議を継続することができた。コロナ前は会議のたびに 25 名程度が参集していたが、今年度は最大でも 16 名、１～３月は５～７名にまで参集人数を絞ることができた。会議参加者の zoom 参加率は夏ごろ 30%台だったが冬には

70～80％に達した。

zoom 併用が当然になったことをうけ、zoom だからこそできることにチャレンジしようという機運が高まった。そこで２月の定例会では、東京都練馬区でまちづくりコーディネータをされている方をお招きして委員会活動の振り返りを行うなど、ハイブリッド会議を余儀なくされている状況を逆手にとった取組にもチャレンジし始めることができた。

第２部会

多くの人が集まる研修や勉強会は開催できなかったが、いちはやくコロナウイルスを意識した防災まちづくりが必要と考え、オンライン会議に取り組むことができた。zoom が利用できる人はオンラインで、苦手な人は会場で従来型の対面会合に参加するハイブリッド方式で集まる人数を減らし、７月に合同部会、２月末に部会を開いた。

オンライン会議以外には、人数を絞ったコア会議をこまめに開いた。六原フェスタや運動会が中止され、様々なコミュニティ活動が制限を受ける中、これらの形で地域の関係者がコミュニケーションをとることは孤独感の払拭にもつながり、絆が深まったと考える。

コロナ禍により、感染症と防災への関心も高まり、コア会議や部会では、コロナ禍での避難所運営について議論し、備品の見直しにつながった。今後コロナ禍が収束したとしても、インフルエンザなどの防止は避難所運営にとって大きな問題であり、引き続き協議を続けたい。